

船舶事故調査報告書

平成26年12月11日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司 邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本 美奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成26年2月17日 13時30分ごろ～16時20分ごろの間）
発生場所	不明（広島県江田島市小用港切串地区北西方沖）
事故調査の経過	平成26年3月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{だいえい} 大栄丸、1.67トン HS3-22709（漁船登録番号）、個人所有 5.89m(Lr)×1.80m×0.72m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数25、昭和57年6月26日
乗組員等に関する情報	船長 男性 84歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和49年10月21日 免許証交付日 平成24年4月20日 (平成26年6月29日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成26年2月17日13時30分ごろ、小用港切串地区（以下「切串港」という。）の船だまりを出航した。 船長は、16時20分ごろ、切串港北西方沖に設置されていたかき筏 ^{いかだ} で作業を行っていた作業員によって、無人で漂流している本船の近くでうつ伏せの状態で見つかった。 船長は、作業員から通報を受けて派遣された巡視艇に揚収され、搬送された病院で死亡が確認され、死因は溺死と検案された。 本船は、作業員によって付近のかき筏に係留された。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南、風力 2、気温 約10℃、視界 良好 海象：海上 平穏
その他の事項	船長は、救命胴衣を着用していた。

<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長は、溺死した。</p> <p>本船は、13時30分ごろ出航したのち、16時20分ごろ切串港沖に設置されていたかき筏付近において、無人で漂流しているところを発見されたことから、この間において、船長が落水したものと考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、落水して溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、切串港を出航したのち、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落水した際の連絡手段として防水型携帯電話を常に所持しておくことが望ましい。